

7章 総合問題7

問題

【1】

A.

全訳

卑しくて、悪くて、軽蔑すべき、取るに足らぬ事柄にわずらわされるべきではないが、我々の周り至るところに、幾千という、美しい小さな事柄が存在していて、それらを目にしない、それらを愛さない、というのは明らかに大きな不幸である。

B.

全訳

①人類は、西欧の工業社会の現在の繁栄を得るために大変な代価を支払った。我々はその繁栄を、貧しい国々の何百万という他の人々を犠牲にして獲得してきたのみならず、また、無数の河川を破壊し、大気を汚染してきたのみならず、我々は、西欧人の内的経験にも大変な損害を与えてきたのである。我々は西欧人を、有用な仕事とか合理的な計算などの方向へあまりにも強く押しやってしまったので、彼らは、夢中になって祝ったり、想像力を自由に働かせたりする楽しみをほとんど忘れてしまったのである。そのこぢんまりとしてしまった心は、かつてイギリスの工場に朝から晩まで閉じ込められていた不幸な子供たちの曲がった体と同様に、工業化の犠牲なのである。人間は、本来お祭り騒ぎが好きで、想像力に富むものである。②そもそもの生まれつきから、人間は、ただ働いたり考えたりするばかりでなく、歌ったり踊ったり祈ったり話をしたりもする生き物なのである。文化から祭りの喜びが消失したら、その時は、普遍的に人間的なものが危機にさらされていることになるのである。十分に人間らしい人間になるためには、欧米の工業社会に住む人は、踊ったり空想したりすることを再び覚えなくてはならない。③とはいうものの、我々は完全に人間性を失い、荒廃したわけではなく、我々が未だに新年になると鐘を鳴らして古きものを送り出し新しきものを迎え入れているという事実は、祭りの精神が、いくら弱まったとは言っても、まだ死滅してはいないということを、我々に思い出させるのである。

【2】

ポイント

この長文は形式上は2つの段落から成り立っているが、第2段落は、During the past quarter century … から、下線部③までと、ℓ. 13 In this now universal contamination … から終わりのシュバイツァーの言葉までの部分とに分かれており、全体は3つの段落であると考え方がわかりやすい。論理の展開は極めて明快である。

第1段落は、生命の歴史は生物とそれを取り巻く環境の相互作用の歴史であると述べ、大部分は環境が生物に影響を与えてきたのであるが、今世紀に入って、生物の一種属である人間が環境を変える力を持つようになったことを説明している。

第2段落の前半は、環境に対する人間の攻撃で最も恐ろしいのは大気や川などを汚染したことであるという説明。後半は化学薬品の恐ろしさは放射能と同じであるということを具体的に説明している。最後のシュバイツァー博士の言葉は人間の愚かさを見事に表現している。当時間人は自ら作り出した自然の営みの破壊にほとんど気がついていなかったのである。問題文を読む際には、Topic, Main Point, Warrant を念頭に置くことが大切である。

解答

- (1) existence [being] (2) 生物が周囲の環境を変えること。(15 字)
- (3) 「全訳」の下線部㊟を参照。
- (4) environment [surroundings]
- (5) 「全訳」の下線部㊟を参照。
- (6) c (7) into (8) a own b creation (9) a, e

解説

- (1) earthly time は「地球ができてからの時間」である。 cf. lifetime (一生)
光速より速い素粒子の存在が発見された時代であるから、いずれ訂正がなされるかもしれないが、今のところ the whole span of earthly time は 40 億年であると言われている。
came to () であれば、exist が入る。
- (2) 「まったく逆の影響力」は in which 以下に述べられているが、この説明がなくても、To a large extent, ... by the environment. の逆を考えればわかる。
- (3) 準否定の副詞 only が導く副詞節 Only within the moment of time represented by the present century が文頭に出たため、疑問文の語順に倒置が生じている。主語は one species — man — である。
◇represented by the present century = of which the present century is an example
○ the present century は、ここでは「20 世紀」を指す。
○ significant = having an important effect or influence
○ nature = the qualities or features that something has
- (4) この空所の前にある it (= this power) has changed in character は、具体的には人間が環境を攻撃し、破壊するようになること。それまでは環境が生物を mold し、生物が環境を modify するという程度の相互作用であったのである。ここは man と environment を対比して考える。nature は、英語では人間と対立する概念であるが語義が広すぎるし、第 1 段落の第 1 文、第 2 文から考えても environment か surroundings となる。
- (5) the chain of evil (which) it initiates と考える。the chain of evil で「禍の連鎖」。it は this pollution を指す。
○ initiate [ɪnɪʃiət] = cause to begin
○ not only A but also B 「Aのみならず B」
○ tissues [tɪʃʊz] = a collection of cells that form the different parts of humans, animals, and plants

- irreversible [ˌɪrɪvəˈsəbl̩] = impossible to be done or altered
- the world 「(生物を取り巻いている外の) 世界」
- living tissues 「生物の組織」

- (6) in time 「①間に合って ②決まった調子で ③やがては」
- (7) 「結合して～になる」で combine into である。この into は「変化」を示す。
- (8) 「人間が作った」である。of his *own creation* となる。
- (9) a 「一般的に言えば、環境が地球上の植物や動物の形態を作るのに大きな影響を及ぼしてきた。」ℓ. 2 To a large extent, the physical form 以下の文から判断して、一致する。
- b 「すでに 19 世紀においても、人間は自分たちの世界の本質を変えようとしたが、成功しなかった。」このような言及はない。実際にそういう力を得たのは 20 世紀になってからであることは本文からわかる。
- c 「放射能と比べれば、化学薬剤は取るに足りない汚染物質である。」ℓ. 13 に chemicals are the sinister and little-recognized partners of radiation in changing the very nature of the world — the very nature of its life とある。「放射能の相棒」であるから決して minor pollutants ではない。一致しない。
- d 「地球全体の環境はまだ汚染されてはいない。」ℓ. 13 の In this now universal contamination of the environment の universal は「至るところに存在する」という意味である。「今のように環境がどこもかしこも汚染されている状況では」である。本文には the whole earth とは書いていないが、筆者の判断では「地球上どこもかしこも汚染されてしまっている」のである。一致しない。

Ex. Peace was *universal* throughout the land. (国中が平穏であった。)

- e 「20 世紀になって、人間はその世界の本質を変える力を手に入れた。しかし人間は自分の環境を汚染しただけである。」筆者が主張しているのはこのことである。一致する。
- f 「ストロンチウム 90 は人間の体に害を与えるが、化学薬剤はそんなことはない。」ℓ. 15 Strontium 90, released … until his death. と述べた後, Similarly と続いている。その次の文で work unknown harm on those who … とある。もちろん一致しない。一致文を見つける問題では、問題文のうちある特定の部分のみに関係している場合と、筆者の意図や全体の論調から判断する場合とがある。後者の例が e である。前者のタイプでは微妙な言い換えに注意する必要がある。また f のように前半は本文と一致するが、後半はそうでないということもあるし、b のように本文には直接言及がないが、他の部分から推測できる場合もある。慎重に点検する心構えが大切である。このような問題を inference question という。

いずれにしても、英語の論文において paragraph は形式段落ではなく、意味段落であるので、少なくとも形式段落は途中でストップせず、読み通さなくてはならない。

全訳

地球上における生命の歴史は、生物と環境とが互いに作用し合ってきた歴史である。しかし大抵は、環境が地球上の植物や動物の形態や習性を作ってきたのである。地球が存在するようになってからのすべての時間を考えるならば、生物が実際に環境を変えるというまった

く逆の影響力は比較的わずかであった。㊦今世紀に代表される非常に短い時間の中でのみ、ヒトという1つの種属が、世界の本質を変える意義を持つ力を得たにすぎないのだ。

過去25年の間に、この力は自然をかき乱すほどに大きくなっただけでなく、質が変わったのである。環境に対する人間のすべての攻撃のうちで最も恐ろしいのは、危険で、さらには致命的でさえある物質によって、大気、土地、川、海を汚染することである。このような汚染は大部分が、もう元へは戻らない。㊦生命を維持しなければならない外界のみならず、生物の組織の内においても、汚染によって生じる禍の連鎖の大部分はもはやなくすることができない。この、今やどこもかしこも汚染された環境の中で、化学薬剤は世界の本質そのもの——その生物の本質そのもの——を変えていく点で、放射能の不吉で、まだほとんど知られていない相棒である。核爆発で空中に放たれたストロンチウム90は雨に混じって地上へ降りてくる。あるいは放射性降下物となって漂いながら落ちてくる。そして土壌の中にとどまり、そこで育つ草、トウモロコシ、小麦の中へ入っていき、やがて人間の骨の中に住みつき、人間が死ぬまでそこにとどまる。同様に、農耕地、森林、庭園のいずれかに散布された化学薬剤も土壌の中に長くにとどまり、生物体の中に入り、中毒と死を次々に引き起こす連鎖という形で、生物体から別の生物体へと移っていく。あるいはまた、不思議なことに、化学薬剤は地下水流によって運ばれて行き、地表に出ると、空気と日光の魔力によって結合して新しい姿になり、植物を枯らし、家畜を病気にし、かつては汚れていなかった井戸の水を飲む人に知らぬ間に害を及ぼす。アルバート・シュバイツァーが言ったように、「人間は自分で作り出した悪魔にほとんど気づいてさえいない」のである。

注

ℓ. 1 ◇ interaction = reciprocal action or influence

ℓ. 2 ◇ to a large extent = mostly

◇ $\left\{ \begin{array}{c} \text{the physical form} \\ \text{and} \\ \text{the habits} \end{array} \right\} \text{ of } \left\{ \begin{array}{c} \text{the earth's vegetation} \\ \text{and} \\ \text{its animal life} \end{array} \right\}$

○ the physical form 「自然界に存在する形態；目に見える形」

ℓ. 3 ◇ vegetation = plants collectively, especially those found in a particular area or habitat

◇ animal life 「動物」

○ life = living things

◇ mold = change or influence something over a period of time so that they develop in a particular way

◇ Considering ... = If we consider ...

◇ the whole span of ~ 「～の全体」

ℓ. 4 ◇ modify = make partial changes to

ℓ. 5 ◇ slight = small in degree


ℓ. 8 ◇ disturb = interfere or interrupt

ℓ. 9 ◇ magnitude = great size, extent, or importance

◇ character = the distinctive nature

◇ alarming = causing worry and fear ; making you feel worried or frightened

- ◇ assault = a violent attack
- ℓ. 10 ◇ contamination = pollution 「汚染」
- ℓ. 11 ◇ lethal [lɪθl] = causing or able to cause a lot of harm or damage
 e.g. a *lethal* weapon 「凶器」
 - ◇ for the most part = in most cases
 - ◇ irrecoverable [ɪrɪkʌvərəbl] = not able to be recovered or remedied
- ℓ. 13 ◇ chemicals 「化学製品〔薬品〕」
- ℓ. 14 ◇ sinister [sɪnəstər] = suggestive of evil or harm
 - ◇ radiation [rəɪdiʃən] 「放射能」
 - ◇ in 「～の点で」
 - ◇ the very + 名詞 … 「(名詞) それ自体」
- ℓ. 15 ◇ strontium [strɔːnʃiəm] 「ストロンチウム」
 - ◇ release = let a substance flow out
 - ◇ nuclear explosion 「核爆発」
- ℓ. 16 ◇ earth = the hard surface of the world that is not the sea or the sky 「地面」
 - ◇ drift = be carried slowly by the current of air or water
 - ◇ fallout [fɔːləʊt] 「放射性降下物」
 - ◇ lodge = become fixed or stuck somewhere
- ℓ. 17 ◇ take up one's abode in 「～に居を定める」
 - abode [əbəʊd] = (formal or literary) a house or home
- ℓ. 18 ◇ spray [sprɛɪ] 「散布する」
 - ◇ cróplànd 「作付け適地；農耕地」
- ℓ. 19 ◇ living organisms 「生物体」
 - organism = an individual animal, plant, or single-celled life form
 - ◇ one は a living organism を指す。
 - ◇ another は後ろに organism を補って考える。
- ℓ. 20 ◇ they は chemicals を指す。
 - ◇ underground streams 「地下水流」
- ℓ. 21 ◇ emerge = move out of something and become visible
 - ◇ and [, through the alchemy of air and sunlight,] combine ～.



○ and [, M,] V の基本形。

 - alchemy [ælkəmi] 「①錬金術 ②魔力；秘法」 (= a mysterious power or magic that can change things)
- ℓ. 22 ◇ work harm on 「～に害を及ぼす」

【3】

A.

解答

- (a) (1) He seldom drives downtown.
 (2) This library has no books or magazines for children.
 (3) As a simultaneous interpreter, Suzuki is hopeless.
 [Suzuki is hopeless as a simultaneous interpreter.]
- (b) (1) His explanation was far from [anything but ; not at all] satisfactory.
 (2) This city is free from air pollution.
 (3) None of us could deny that we are living in the age of information technology.
- (c) (1) Not everyone likes English.
別解 Not all (of us [them]) like English.
 (2) Learning a foreign language is not always enjoyable. It is sometimes painful.

解説

- (a) (1) 「車で行く」は、動詞 drive で表すことができる。「めったに…ない」は、準否定語で頻度を表す seldom, または, rarely を用いる。hardly, scarcely は「頻度」ではなく、「程度」を表すので、ここでは不適 (hardly ever なら可だが、語数がオーバーしてしまう)。ところで, seldom は always, often などと同様に、「頻度」を表す副詞にすぎないので, drives と三単現の s を付ける必要がある。
- (2) 与えられた語句から, This library has (①) books (②) magazines for children. と並べることができる。「まったくない」から, 「本も雑誌もゼロ」と考えて, ゼロ概念の no が①に入る。「否定文において2つの事柄を両方否定する場合, not [no] ~ A or B とする」というルールがあるので, ②には or が入ることになる。and を入れると, 「子供用の本(で, しかも)雑誌」となり, 不自然である。
- (3) 「～としては」には, 前置詞 as を用いることができるので, as a simultaneous interpreter となる。「鈴木君はまったく将来性がない」の部分が問題だが, Suzuki is () という構造になるのはわかり, () には「否定の意味を含む形容詞」が入ると予想できる。「まったく将来性がない」の意を表す形容詞は hopeless である。
- (b) (1) 「およそ満足できるものではなかった」の「およそ」は「(後に否定の語を伴って) まったく ; 全然」の意であるから, far from ~, anything but ~, not at all ~, not in the least ~, not by any means ~, by no means ~, in no way ~ などの表現を用いればよい。「満足できる」は形容詞 satisfactory を用いる。なお, far from ~ を用いる場合は, far from *being* satisfactory としてもよい (from は前置詞だから)。
- (2) This city is という書き出しが与えられているので, 「～がない」の意の形容詞句を続ければよいと考える。be free from [of] ~ というフレーズはぜひ覚えておきたい。「大気汚染」は air [atmosphere] pollution。
- (3) None という書き出しが与えられているので, None 1 語を主語としてもよいが, None of us とすれば, 「(我々の身近にいる) 誰も…ない」というニュアンスが

出る。「…ということを否定できないだろう」は、仮定法の婉曲用法の could を用いて、could deny that …とするとよい。「現代は I T の時代である」は、そのまま this is the age of information technology としてもよいし、None of us の us を受けて「我々は I T の時代に生きている」と考えて、we are living in the age of information technology とすることもできる。

- (c) (1) 「すべての人が英語が好きというわけではない」という部分否定の文にすればよいから、Not everyone likes English. [Not all like English.] とする (everyone は単数扱い、all は複数扱いであることに注意)。Everyone does *not* like English. [All do *not* like English.] のように否定語 not が後置されると、「全員が英語が好きでない」という全否定の意味にもとれるので、音声情報が与えられない英作文では避けるべき。また、「私たち全員が…ない」という文脈なら、Not every one of us [Not all of us] …, 「彼ら全員が…ない」という文脈なら、Not every one of them [Not all of them] …とすることもできる。
- (2) 「語学」は「外国語を習得すること」と考え、learning a foreign language [foreign languages] とするのが一般的 (しかし、東京外語大に日本語学科があるように、母語の研究も語学に含まれるので、studying a language としてもよい)。ただし、一般論なので to 不定詞ではなく動名詞を用いる。「必ずしも～とは限らない」は、「(頻度的に見て) 常に～とは限らない」の意の not always を用いるのがここではピッタリである。not necessarily は「必然的に～とは限らない」という意味で、「～であるか否か」を述べる場合に用いる表現なので、ここでは不可。「楽しい」は enjoyable, 「苦痛である」は painful を用いるとよい。

B.

解答

- (1) A : You haven't heard (anything) from your daughter Ryoko? It must be worrying you.
B : Not particularly. No news is good news, you know.
- (2) A : Would you like some more coffee?
B : No. No more, thank you.
A : No more?
B : No.

解説

- (1) 「～から音沙汰がない」は、have not heard from ～, not a word has been heard from ～のように表すことができるので、「娘さんの涼子さんからまだ何も音沙汰がないのですか」は、You haven't heard from [Not a word has been heard from] your daughter Ryoko? となる。
- 「さぞご心配なことでしょう」は「そのことはあなたを悩ませているに違いない」と解釈し、「状況」を表す it を主語として、It must be worrying you. とするか、「あなた」を主語にして、You must be worried [concerned ; anxious] . とすることもできる。また、聖書からきた慣用表現の eat out one's heart [eat one's heart out] (悲

嘆にくれる)を用いて, You must be eating your heart out.としてもよい。
「いいえ」はそのまま No (I'm not) . とするか, 「別に」と考えて, Not particularly.
のようにしてもよい。

「便りが無いのはよい知らせ」は, No news is good news. ということわざをそのまま用いる。「…とよく言うではありませんか」は, you know, they [people] say を文尾(または文頭)に置けばよい。

- (2) 「もう少し～はいかがですか」は, Would you like [care for] some more ~?, Won't you have some more ~? などが決まった言い方。

「ええ, もう結構です」は, No, no more, thank you. というのがほぼ決まった表現である(断る時にも thank you を付ける)。

「もういらないのですか」は, その前の相手の言葉を受けて, No more? とすれば十分。それに対する「ええ」を Yes とした人はいなかっただろうか。「自分はこれ以上いらない」という否定の意なので, あくまでも No と言わなければならない。

【4】

解答

- (1) (Not) merely were we hungry (, but we were suffering from thirst.)
- (2) (Hardly) have I heard her speak English(.)
- (3) (Little) does he realize the danger he is in(.)
- (4) (Only) seldom did she take part in conversation(.)
- (5) (Only in) a peace in which we can be confident, can the world prosper(.)
- (6) (Under) no circumstances must the door be left unlocked(.)
- (7) (In the park) are planted as many as two hundred (trees.)
- (8) (Such) was his behavior that everyone disliked him(.)
- (9) What do you think we must study English so hard for(?)
- (10) (Astronomers no) longer regard as fanciful the idea that (they may one day pick up signals which have been sent by intelligent beings on other worlds.)
- (11) (I know) who he is but not what he is(.)

解説

〔倒置文の語順〕

(1) ～ (6) は, 否定を表す語句が文頭に出て, 疑問文の語順になる例。入試では超頻出なので, すべて暗唱すべき。

- (1) ○ not merely [only] A but (also) B 「AのみならずB」

- (2) ○ hardly 「ほとんど…ない」

○ hear O … 「Oが…するのを聞く」

- (3) believe, care, dream, expect, know, realize, think, understand などを修飾する little は never と同意。本問を, 「ほとんど…しない」と解釈するのは, 初学者が犯しやすい誤りの1つ。

○ the danger (which) he is in

- (4) Only seldom は, seldom (めったに…ない) の強調形。
○ take part in ~ 「～に参加する」
- (5) Only は準否定語と考える。
○ confident in ~ 「～に自信を持って」
- (6) ○ under no circumstances 「いかなる状況でも…ない」 → 「どんなことがあっても…ない」 [= not … under any circumstances ; never]
○ leave O C 「OをCのままにしておく」
- (7) 副詞句が文頭に移動した形で, この場合は随意的, つまり義務的ではないので trees が文末に置かれていなければ, In the park as many as two hundred trees are planted. も文法的には可能である。
○ as many as + 数字 「～もの」
- (8) ○ S is such that … 「Sは非常なものなので…」 の倒置形。
- (9) ○ What … for? = Why …? 「なぜ…なのか」
What do you think に後続する語順は平叙文と同様。
- (10) ○ no longer … 「もはや…ない」
regard A as B (AをBとみなす) のAの要素が右方転移された形。
- (11) who は「どんな名前の人間か」を, what は「その人の職業」を表す。

【5】

解答・解説

- (1) (You cannot) watch out for cars too much (when you walk along the street.)
○ cannot … too ~ ; cannot … enough 「どんなに…してもしすぎることはない」
○ watch out for ~ 「～に注意する」
- (2) (He has) yet to get in touch with (his mother.)
○ have yet to … 「まだ…しない ; これから…する」 [= is yet to …]
○ get in touch with ~ 「～と連絡をとる」
- (3) He knew better than to believe it.(.)
○ know better than to … 「…するほど愚かではない」
- (4) (You can never) hurt others without hurting yourself.(.)
○ never ~ without …ing 「…することなしに～しない ; ～すれば必ず…する」
※二重否定。
- (5) None of the students could answer (the question correctly.)
○ none of ~ 「～の誰も…ない」
- (6) Not all my classmates like the (food in the cafeteria.)
○ not all ~ 「すべての～が…というわけではない」 ※部分否定。
- (7) (It is not what you read but) how you read it that counts.(.)
It is ~ that …で「～」の部分で強調する強調構文。
○ not A but B 「AではなくB」
○ count 「価値がある ; 重要である」

(1) whatever の用法

- ① You can say *whatever* you like as long as the network doesn't get upset.
- ② I'll be happy to tell you *whatever* I know.
- ③ He knows *whatever* you'd want to know.
- ④ He'll probably buy you *whatever* you ask for.

(2) How long ~ since [before etc.] ...? 「…してから [するまで] どのくらいですか」

- ① How long has it it been since you've been on my show?
- ② How long has it been since you came to Japan?

別解 How long have you been in Japan?

- ③ How long has it been since I last saw you?
- ④ How long will it be before the next train leaves?

(3) 疑問詞 + (名詞) + is it that ...? (疑問詞を強める強調表現)

- ① What is it exactly that you want to know?
- ② When is it that you are going to have your stomach operated on?
- ③ Who is it that was taken hostage?
- ④ Why is it that he was forced to step down?

(4) It is not that ... 「…というわけではない」

- ① It's not that I lacked the looks or ego.
- ② It's not that I don't like you.
- ③ It's not that I don't want to go there.
- ④ It's not that I didn't care [wasn't concerned] about you.

(5) would rather (not) ... 「どちらかと言うと…したい (したくない)」

- ① You'd rather be tap dancing.
- ② I'd rather stay home today.
- ③ I'd rather not go there.
- ④ I could lend it to you, but I'd rather not.

E3T/E3TK/E3TF

難関国公立大・医学部英語／難関大英語 T

京大英語／難関大英語 T (京大)

一橋大英語／難関大英語 T (一橋大)



Z-KAI

会員番号	
------	--

氏 名	
-----	--

不許複製